

豊かな心と健康な体力の育成をめざした

学校・家庭・地域の連携

岩国市立御庄中学校 PTA

1 学校地域の概要

P T A 会 長 : 今宮 節明
文化体育後援会長 : 廣中 哲也
学 校 長 : 神村 信男
生 徒 数 : 34人
家 庭 数 : 30世帯
教 職 員 数 : 13人
所 在 地 : 〒741-0083 岩国市御庄 2027 番地-2



TEL 0827-46-0013 FAX 0827-46-0411

U R L : <http://www.msj.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/>E-mail : mishou_c@city.iwakuni.lg.jp

(1) 地域の特徴

御庄地区は岩国市の中心部から約10km西部にある自然豊かでのどかな地域である。しかし、地区内には山陽新幹線新岩国駅や錦川清流鉄道御庄駅、山陽自動車道岩国インターチェンジなどが通り、近年は交通の要衝としても発展してきた。古い歴史をもつとともに、岩国市の西の玄関口としての顔もある。

地域の教育への関心は高く、地域をあげて青少年の健全育成に取り組む風土がある。学校に対しても大変協力的であり、地区の関係機関との連携が取りやすい。温かい地域の方々に見守られながら、生徒たちは元気に明るく家庭生活や学校生活を送っている。

(2) 学校の特徴

地区内には、1幼稚園、1小学校、1中学校（本校）がある。校種間の交流や連携を深めながら、地域に根ざした教育を進めている。保護者や祖父母たちも本校の同窓生であるという生徒が少なくない。そのため、学校に対する理解や協力体制は得やすく、地域素材や人材を教育活動に活用したり、生徒が地域に出向いてボランティア清掃をしたりする活動を継続的に実施しており、学校の特徴ともなっている。

小規模校であるため、学年を解いた異年齢集団での活動や、一人が何役もの責任を果たすなかで、生徒たちは豊かな経験を積んでいる。一人ひとりの生徒に活躍の場があり、感動体験を重ねながら生徒は成長しており、家庭、地域、教職員がそれを支えている。

(3)学校の目標

- 校 訓 : 自主・協調・創造
- 学校教育目標 : 人間性豊かで、気づき、考え、行動する生徒の育成
- めざす学校像 : *ひとやものごとに感動し、喜びを感じる活力のある学校
*一人ひとりの夢を実現できる、楽しくて行きたい学校
*家庭、地域と連携し、開かれた学校
- めざす生徒像 : *3つの気（元気、やる気、根気）がある生徒
*基礎、基本の学力を身に付け、社会の変化に主体的に対応できる生徒
*自分の思いを表現し、周囲を思いやる実践ができる生徒
- めざす教師像 : *率先垂範・師弟同行に努める教師
*指導力と実践力の向上に努める教師
*全教職員が協働し、生徒・保護者・地域から信頼される教師
- チャレンジ目標 : みんなを思いやる言動、時と場に応じた言葉遣いをしよう

2 PTA・文化体育後援会の組織

組 織	構 成 員	主な活動内容
PTA・文体総会	全会員	
総務委員会	PTA 会長・副会長（研修部長、補導部長、女性の会代表） 文化体育後援会長・副会長 学校長	PTA・文化体育後援会の活動及び行事等の企画・運営 家庭教育学級への協力
拡大総務委員会	総務委員 学級委員 学校長	各部の活動への協力 PTA 新聞の作成
各 部 会	研修部（学級委員）	PTA 新聞「しらさぎ」発行 文化祭での即売会・昼食バザー等
	補導部（地区委員）	小中合同体育祭での交通安全指導 文化祭での校内警備 御庄地区生徒指導推進協議会出席 環境整備
	女性の会	文化祭即売会・昼食バザーの企画 女性代表の会研修会参加

役員会	PTA・文体会長、副会長 学級委員 地区委員 学校長	PTA・文体の活動への協力 学校行事への参加・協力 学校安全ボランティア活動 環境整備
監査	監査委員は2年学級委員が 兼務	会計監査及び報告
PTA・文体事務局	教頭	各部会等との連絡・調整

3 研究主題について

豊かな心と健康な体力の育成をめざした学校・家庭・地域の連携

本校は各学年単学級であり、生徒のほとんどが幼稚園、小学校、中学校と同じメンバーで進学してきている。また、体育祭を小中合同で行ったり、学校施設を小中で共有したりしており、児童生徒の交流をとおして小中連携が図られているので、小中間のギャップは低い。生徒たちは、性別や学年を問わず誰とでも親しく接しながらのびのびと学校生活を送っている。素朴で明るく、どのような活動にも一生懸命取り組む反面、固定されがちな人間関係の中で、相手を思いやる言動や主体的に課題を解決していこうとする力の育成が課題でもある。

保護者はもちろん地域の方々の学校教育への関心は高く、地域の関係機関との協力体制は整っている。生徒数及び家庭数の減少に伴い、学校が充実した教育活動を進めるためには、保護者や地域との連携や協力体制は、今後も一層強化していく必要がある。学校への理解や協力を得るためには、まず学校の実態や取組をしっかりと伝えることが第一歩である。しかしながら、3年前に行った学校評価アンケートで保護者の回答の中に「学校の様子がよく分からないので評価するのが難しい」といった内容の意見をいただいたことがあった。このことを大いに反省して、まずは学校からの情報発信を充実させて学校をしっかりと開き、その上で保護者や地域との連携を深めるための取組を進めることが必要であると考えた。

そこで、これまでの取組を見直しながら、さまざまな形で保護者とのコミュニケーションを密にしたり、学校の教育活動へ保護者や地域の方の参加を呼びかけたり、地域の教育力を活用したりすることによって、学校と家庭と地域との連携協力をさらに強め、子どもたちの健全育成を図ってきた。

このたび山口県 PTA 連合会の研究指定を受けたことを契機として、「子どもたちの豊かな心と健康な体力の育成をめざした学校・家庭・地域との連携」のあり方について、さらに研究を深め、実践をとおして成果のあるものにしていきたいと考え、協働の場を多く設定し取り組むこととした。

4 活動内容

(1) 公民館との共催による「家庭教育学級」

今年度は開催数を1回増加し、保護者や地域の方の積極的な参加を公民館便りでも積極的に呼びかけた。

① 第1回目 平成23年5月13日(金)

『心も体もリラックス ～グループエンカウンターを体験しましょう～』

講師：本校スクールカウンセラー

内容：学年ごとに本校SCの菅 高志先生の指導によりグループエンカウンターの活動を行った。幼小中と同一のメンバーで育っている生徒たちであるが、活動をとおして改めてお互いのよさや協力の大切さを学んだ。

保護者に対しては、学校公開期間中の最終日に、同じく菅先生を講師として、エンカウンターを実施した。多くの保護者が参加され、和やかな雰囲気の中で“自分に優しくほっとひといき”リラックスの時間を過ごした。

この活動は生徒や保護者とSCとの人間関係づくりにも大いに役立ち、その後の効果的な教育相談にもつながった。



男子は上手にできているかな？



BGMを聞きながら目を閉じて・・・

② 第2回目 平成23年11月10日(木)

『正しいマナーを身に付けよう』

講師：山口県立岩国商業高等学校商業科の先生2人

内容：思いやりのある言動と、時と場に応じた言葉遣いを身に付けることは、本校生徒の課題であり、チャレンジ目標としている。コミュニケーション能力を身に付け、豊かな人間関係を結ぶための第一歩としてマナー研修を実施した。講師は地域の高等学校の先生に依頼した。挨拶の意味や、相手の気持ちを尊重するための表現力などについて、実技をとおして研修をした。挨拶とお辞儀の仕方はその後の学校生活の中で、全校で実践している。保護者からは、「家庭でも早速実践します。」との声が聞かれた。



- ・第一印象は6秒で決まる。
- ・身だしなみのポイントは服装、髪型、靴、爪…。
- ・語先後礼を実践中

③ 第3回目 平成23年12月2日（金）

『自分の心身の健康について考えよう』

講師：学校医（耳鼻科）、学校医（歯科）、学校栄養教諭、赤十字救急指導員、
整体師 の5人

内容：自分の心身の健康について、生徒たちが日頃疑問に思ったり、不安に思ったりしていることを質問項目にまとめ、それをもとに5グループでワークショップ型の研修を実施した。保護者にも希望のグループに入ってもらい、生徒とともに専門家に質問したり、アドバイスをいただいたり、実習をしたりした。どのグループも活発に話し合いが進み、保護者も積極的に質問されていた。本校としては初めての試みであったが、講師の先生からも、生徒や保護者と健康や安全について直接話げできたことは、大変興味深く効果的であったとの評価をいただいた。



「美容のためにはお米を食べましょう。」



「背骨はゆがんでいませんか？」

(2) 地域の関係機関との連携による取組 ～地域とともに子どもの成長を支援する～

① 青少年健全育成標語コンクールへの参加

内容：地区の社会福祉協議会青少年育成部が主催する「御庄地区青少年健全育成標語コンクール」には、毎年、御庄小学校と中学校の児童生徒全員が参加する。自分の地域を見つめ、安心・安全なまちづくりへの思いや願いを標語で表す。地域の関係者が審査をし、最優秀に選ばれた標語は公民館の前に看板掲示される。毎年恒例となっているこのコンクールは学校と地域との連携を深める活動として定着している。



② 夏休み「学習&宿題教室」の実施

期間：平成23年8月9日～11日 午前9時～12時

会場：御庄分館（公民館）

対象：御庄中学生1～3年生

御庄分館の主催で行われた子ども対象事業である。夏休み前に上記の内容で生

徒に呼びかけたところ、3日間で述べ54人の生徒が参加した。静かで涼しい環境の中で、生徒たちは夏休みの課題や自主勉強に取り組んだ。御庄分館の指導員の方が“地域の先生”として、勉強の仕方や苦手を克服する方法など、経験を踏まえて生徒に話をされる場面もあり、生徒は関心をもって聞いていた。



地域の先生から学ぶ苦手克服

③ 地域の祭りへの参加から貢献へ

岩国市の観光名所のひとつが全国的にも名高い「錦帯橋」である。御庄地区は錦帯橋の近隣にあり、生徒はこの“地域の宝”に慣れ親しんで育っている。

今回、「錦川灯りの祭」という地域の祭りで使われるあんどんを作る活動に、全校生徒で取り組む機会を得た。地域の行事に間接的ではあるが参加し、多少なりとも貢献できるよい機会である。保護者にも協力を呼びかけたところ複数の父親の参加があった。作業においては、指導に来られた専門家に加えて、保護者も生徒たちに木工の技術を指導する光景が見られ、親と子のコミュニケーションを深めることができた。



全校34人の生徒と保護者で
目標数100個を上回り、
115個のあんどんを完成!

(3) 全家庭との連携による健康・安全への取組

① 朝食メニューコンテストに全員参加



左の料理は1年生男子が、夏休みに保護者と一緒に考案した朝食である。岩国市保健センターの主催で行われる「朝食メニューコンテスト」に、本校は全生徒が参加している。メニューを考えるときには、栄養のバランスや色合い、盛りつけかたなどを生徒たちは頭をひねって考える。

ここで頼りになるのは保護者の協力である。生徒たちは保護者に手伝ってもらいながら毎回オリジナルなレシピを考案してくる。写真付きレシピは文化祭で掲示し来校者を楽しませている。全校で参加していることに対して、学校賞を受賞したり、地域の広報にレシピが紹介されたりしており、家庭との連携が成果を上げている。

② 学校安全への全家庭の協力

本校では御庄小学校とも連携して毎年学校安全ボランティアを募集している。毎年、全家庭の保護者がボランティアの登録をしており、安全に対する関心が高い。生徒の登下校の見守りなどを無理のない範囲でお願いしている。

生徒の安全にかかわる情報はメールで発信している。ほぼ100%の保護者にメールによる迅速な安全確保にかかわる情報が徹底できる状況である。

(4) 学校から家庭・地域へ ～生徒の力を発信する活動～

① 地域清掃ボランティアの継続実施

本校の特色ある教育活動にボランティア活動がある。地域への感謝の気持ちをこめて、地域の公共の施設を気持ちよく使ってもらおうと、毎年清掃活動を継続して実施している。特に、地域の公園や無人駅構内は利用する人も多いため、毎回念入りに清掃している。清掃をするにあたっては公民館を通じてゴミ袋の提供や回収などで市の協力も得ている。



御庄駅の待合室を

磨いています。 ⇒

ピカピカに気持ちよく
仕上がりました。

② 高架下除草の仕上げ

毎年、小中合同体育祭の時に駐車場として借りる高架下の広場を整備している。まず、土日に保護者と地域の方が草刈り機を使って除草され、除草後の大量の草を、翌週、御庄中学生が集めて、駐車スペースを作るという連携プレーを行っている。



駐車スペースを確保して多くの来場者を期待します。

(5)「豊かな心」と「健康な体力」を育てる学校環境づくりへの取組

保護者や地域の方々の協力のもとに、次のような環境づくりや体験活動を行った。

① 環境整備 緑のカーテン



土づくりや水やりの成果で今年はこんなに立派な緑のカーテンが育ちました。

② “御庄農園”（学校の畑）を使ってトマトを栽培



自分で育てたミニトマトのおいしさにトマト嫌いを克服した生徒もいました。栽培については地域の方の指導を参考にしました。

③ 豊かな体験で育てる豊かな心



「フラワーアレンジメント」



「箏の体験学習」



「ものづくり体験学習」

5 成果と課題

学校評価アンケートへの保護者からの率直な声をひとつのきっかけとして、学校をもっと開き、家庭や地域との連携のもとで生徒を育てる必要があると考え、さまざまな活動を行ってきた。これまでの取組を振り返ると、次のような成果と課題があげられる。

〈取組の成果〉

(1) 保護者・地域の学校教育活動への参加率と内容の拡充

参加型の教育活動が効果的であった。学校行事をはじめ、教育活動への参加を保護者や地域に積極的に呼びかけ、毎回数人の保護者や地域の方の参加があった。学校や生徒の様子を参観してもらっただけでなく、生徒と一緒に実技や研修ができる内容を増やしたので、参加者にとっても有用で楽しい時間であったという感想が多く聞かれた。学校の教育力を提供する場としても生かした。生徒も保護者や地域の方に見守られているという安心感や感謝の気持ちが生まれ、豊かな心の育成につながることができた。

(2) 保護者・地域との連携による教育環境整備の充実

安全面では、学校安全ボランティアへの全家庭の登録や、メールによる連絡網への登録など、生徒の安全に関する保護者の協力意欲が高まり、学校・家庭の強いサポート体制のもとに、安心・安全な学校づくりができています。

環境整備においては、地域の関係機関や保護者の協力により、地域における清掃ボランティアの活動がよりスムーズに進められるようになった。校内花壇づくりでは地域の方による苗や肥料の提供もあり潤いある学校づくりに生かしている。

(3) 実感を伴う学校評価アンケートへの改善

保護者の声が直接学校に届くようになった。子どもの様子を直に見たり、一緒に活動したりする場を増やすことにより、これまでは子どもの声を通じて理解していた学校の様子や子どもの実態が、保護者自身の実感として感じてもらえるようになった。学校評価アンケートの回答結果にも「分からない」項目がなくなり、具体的な意見や気づきが増えている。

〈今後に向けて〉

- 連携のあり方について工夫する必要がある。学校の教育活動への協力依頼や学校から出向いての地域ボランティアなどという形に加えて、学校の教育力や地域の素材・人材を相互に提供しあえるような取組ができるとよい。
- 連携意識を全保護者・地域へと広げていきたい。本校は平成25年度末をもって、近隣校への統合が決定している。どのような状況であろうと、学校が効果的に教育活動を進めるためには、家庭や地域との連携・協力が必要であることに変わりはない。これからも御庄地区で生活し、成長していく子どもたちの健全な育成のために、学校の取組をとおして、少しでも地域の教育力を高めたり、学校教育への理解を深めたりすることにつなげていきたい。



錦川清流駅伝大会後、応援の保護者と一緒に